



Yonago East Weekly

創立 / 1968年4月24日 事務所 / 米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 (0859)32 5531
 例会日 / 水曜日12:30 ~ 13:30 例会場 / ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 (0859)33 0911
 会長 / 新納哲雄 幹事 / 小谷維夫 会報 / 永島清孝 提供 / 東京印刷

出席報告

会員数76名 出席数 49名 欠席数 22名
 出席免除会員 5名(荒川(雄)君、村上君、田中君、松本(正)君、新宮君)

出席率 70.07%

前回補正出席率 1/23 83.56% 1/16 81.33%

欠席者

足立君、深田君、岩崎(浩)君、小谷君、小土井君、小西君、前田君、松本(啓)君、松浪君、長棟君、西村君、野津君、尾沢君、佐田山君、坂口君、杉原君、戸田君、田村君、寺崎君、内田君、吉野君

ビジター

入江伸二君(米子)

メーカー

杉原君、尾沢君(1/30松江)、小谷君(2/2米子)、石井君、野坂(美)君(2/3米山総会)、小土井君(2/2・3青少年交換)

今週のお祝い

結婚記念祝: 6日松本正己君、16日吉岡朋美君、27日梅田整一君、赤木勇夫君、30日秦野一憲君
スマイルBOX 15,000円 (累計628,500円)
 結婚記念祝: 秦野(一)君、赤木君、吉岡君、梅田君、松本(正)君、夫人誕生祝: 橋谷君、まぐろラーメンの試食会がありました。完成したら、皆様で食べてみてください: 秦野(一)君

会長挨拶

田村裕さんの「ホームレス中学生」で、ある日家族が突然「解散」の一言で別れ別れになり、当時中学生の公園でのホームレス生活が始まりました。空腹のあまり草やダンボールまで食べた。11歳で大好きだったお母さんとの別れがあり、「今はなきお母さんに伝えたいこと」として、お母さんの思い出が話されています。いつか僕を見て周りの人が僕でなくお母さんのことを褒めてくれるような立派な人間を目指して…。「ワーキングプアー」や「佐賀のがばいばあちゃん」を読んだときも私の幸せのハードルはどんどん低くなりました。マザーテレサさんの本では「貧しい人々について語ることがひとつの流行になっている。しかし貧しい人々と話すことを人はあまり好みません。」同情はするけどもう一步踏み込んでゆけない。我々は「奉仕の心」や「援助の手」を差し伸べ行動することが大切だと感じました。

幹事報告

1. IA地区委員会のお知らせ
3月22(土)・23日(日) ホテルモナーク鳥取
2. 米山学友ホームカミング制度のご案内
締切り 3月31日
3. R財団国際親善奨学生募集要項訂正と追加
4. マルチプルP・H・Fピン
高橋孝之君
5. 新入会員スポンサーピン
杉原君、北沢君、井上(賢)君
6. ローターレート通知
2月 108円/ドル
7. 例会変更通知
倉吉中央RC 2月20日(水) 夜間例会
倉吉RC 2月19日(火) 2/20合同例会
各クラブビジター受付あり
鳥取北RC 2月12日(火) 休会
19日(火) 夜間例会
ビジター受付は2/19のみ



プログラム



年男放談 「自信を持って故郷を自慢しよう」

秦野一憲

60歳「還暦」の年となった。 思えば12歳、24歳、36歳、48歳と人生における大きな節目であった。これからの12年は仕事に加え私生活も充実した壮年時代にしたいものだ。これからは責任ある年代であり自分の意見を率直に述べる事が重要だと考える。 経済同友会で地域活性化の課題を考えると、故郷の素晴らしさについて自信を持って発言することが重要だと思える。山陰人は忍耐、控えめ、謙譲の精神を持つが、現在の世情ではなかなか通じない。加えて、都会人は地方人を少し下に見ていると感じる。私は出張先の東京で、山陰の良さをアピールすることになっている。 自然景観と言うなら大山、中海、日本海、島根半島、宍道湖など枚挙にいとまがない。水道水のおいしさは抜群であり、コカコーラやサントリーの水工場などが進出している現実も都会人は知らない。食材も素晴らしい物が沢山ある。 故郷の良いところを自信をもって情報発信することが地域の価値を高め発展する基本だと思う。 そんなに良いところなら是非行ってみたい、また企業誘致にも応じてくれるのではないだろうか。 今の時代は謙譲の美德より、山陰の素晴らしさを積極的に喧伝することだ。



「歳男歳女放談」 前畑祥子君

今、ゆうゆう壺番館で働いているんですが、人生の節目は12年毎に訪れていました。5人兄弟の一番下で、12歳のとき両親が「5人も大学にいかせると経済が持たない。一番下は炊事・洗濯・掃除が好きだから・・・。」と話していたんです。「親に勝手に自分の人生を決められる」と本をあさり、看護婦が向いてるって思い、東南アジアやアフリカでボランティアをしたいと思いました。決意が三つあり、専門学科の勉強をする、外国で恥をかかないように日本史と世界史を勉強する、外国人と喋れるように文通をするでした。親に内緒で一生懸命実行しました。高校3年生のときに看護婦を両親にすごく反対され、大阪の推薦を母親が勝手にキャンセルし、米子で就職できる看護学校を選びました。看護婦の世界は異質で、注射器を持ったまま倒れたり、先生を介助するのが怖くて、教務から辞めなさいって言われ凄く挫折しました。24歳は労災病院での全国バレーボール大会で優勝して、次は結婚という感じで決断しましたし、36歳には新しい手術室のシステムを変えて仕事のリズムに乗っていました。48歳のときは労災病院を退職し、訪問看護ステーションを作りました。今年60歳で定年退職の時期ですが仕事が趣味ですのでまだまだ働きます。

ロータリーへの想い

〈 原稿提出のお願い 〉

会報リーダー 永島清孝

7月から、毎週、週報に「ロータリーへの想い」を掲載しておりますが、現在、提出が全くありません。早期の提出は大歓迎ですので、順番関係なく、皆様からの提出をお待ちしております。どうぞ、ご協力宜しくお願い致します。

次回プログラム

2月6日 「ロータリーの友紹介」
「38度線突破第2弾」 田中伊佐保君
13日 2月15日(金) 5RC合同例会

2月20日 未定
27日 「エジプトについて」
鳥取大学研修医 アポバイカー氏